

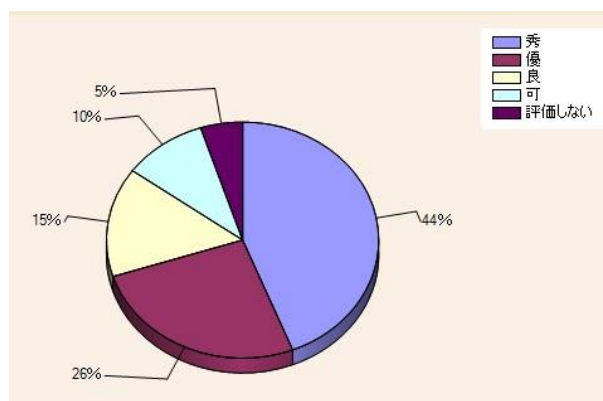
## 社会学 1 の概要と視聴覚教材の活用

社会科教育・魁生由美子

### 1. 授業の基本情報・概要

本授業は初等教育コース、中等教育コース(社会、選択必修)および高等学校(公民、選択必修)の科目である。授業では、小・中・高の社会科関連科目の授業を構成するために必要な社会学の基礎を学習し、社会学の基礎知識と実際の社会現象を関連づけて考察できる知見を身につける。そのため、社会学の入門書を複数活用しながら、学生にとって身近なトピックスを社会学の基本的な概念や考え方に関連付けた、分かりやすい解説を心掛けている。題材は、学校、仕事、家族、じぶん(=自我)、グローバル化等を取りあげる。A4×4枚程度の資料で、書籍からの引用、新聞やインターネット上の記名記事を参照し、代表的論者の考え方を理解する。随時、視聴覚教材も活用する。

2 年生以上を対象とする社会学 1(2023 年度)は、対面実施を基本にしつつ、担当者の体調不良により、非同期遠隔型の授業を 2 回実施した。非同期遠隔で実施した回は、解説音声付きのパワーポイントおよびワードの資料のデータを Moodle に掲示した。また合理的配慮を必要とする履修生にも対応できるよう、全回数の資料のデータを Moodle に掲示した。コロナやインフルエンザ感染により対面授業に欠席した学生も都合に合わせて受講できる体制を整えた。理解度を確認するため、随時、感想コメントを課した。



履修者数は 39 名であった。内訳は中等社会 8 名、小学校サブコース 25 名、特別支援 6 名である。

成績評価は課題の提出状況と評価をチェックしたうえで、期末試験の結果に重点を置いて行った。期末試験は資料とキーワードの復習により、完全回答できる内容であった。成績は秀 44%、優 26%、良 15%、可 10%、評価せず 5%で分布していた。

### 2. 授業評価・授業研究の内容

とくに視聴覚教材を提示した授業について、学生による授業評価の一部分を以下紹介する。

○ 私が「モダン・タイムス」を見て最初に驚いたことは、モニターによる監視である。社長が別の部屋のモニターから、労働者の様子を常に監視している。この異様なまでの労働者の監視は、より富裕層と貧しい人々の階級の差を痛烈に表している。一方、監視をしている社長は仕事の効率ばかりを重視し、労働者の気持ちなど微塵も感じ取る様子はない。モニターで監視すること以外は遊んで過ごしているという点でも、管理する側と管理される側の違いを見ることが出来る。

○ 日本はここ 30 年賃金が上がっていない。また、仕事が原因で体調を崩したり、命を絶つ人もいる。仕事を第一優先にしてきた国の賃金が上がっておらず、仕事により人生に希望が持てなくなってしまう人がいるこの社会を放っておくことは許されない。学校教育では、仕事に対して新しい価値観を持った子どもを育成する必要があると考える。

### 3. 「授業時間外学習の促進」について

レジュメ、Moodle のトピック欄に適時、参考文献や動画等の紹介を行った。特に動画については視聴したという反応が多かった。

### 4. 総括

授業の主題をより具体的に理解し、現代社会で生じている社会問題に関する学生の問題意識を触発するため、動画等視聴覚教材を豊富化していきたい。